

高津区おはなしアーカイブ

●鈴木 健之 (すずき けんじ)さん

昭和16年生まれ 75歳

川崎市高津区久末在住



◆ご家族のことなど

昨日私の誕生日で、いよいよ後期高齢者の仲間入りしました。健康保険などがこれまでと違って来るんですね。なんだか不思議な気持ちがしております。

生まれも育ちも久末です。この地域はまさしく農村地帯でした。父も農業をしておりましたが、戦時中は出征しておりました。

私は長男で、妹が四人いたのですが、一番上の妹は戦時中に亡くなりました。下の三人は戦後、父が帰ってから生まれ、今も元気しております。

◆谷戸

久末地域にはいくつもの谷戸があって、地域も様変わりしてきましたので、今のう

ちにまとめて、昔の土地の様子や歴史を残そうと、有志が集まって取り掛かっているところです。

明治五年から十年のころ作られた久末の地図がありましてね、これはそのコピーなのですが、道路、田・畑、山林など色分けされております。地形は今とあまり変わっていませんね。番地もそのまま残っています。

伊勢原を中心にしてこちら側を後谷戸(うしろやと)、正しくは後耕地(うしろこうち)と言うんですが、向こうのほうは表谷戸です。昔は橋樹郡久末村だったわけですが、伊勢原、明石穂、谷中、など地名は今も残っています。



(写真上：明治5～10年ごろの久末全体図 写真下：後耕地部分と地図記号)

私が子どものころ、戦争のころですね、久末には62軒、私どもが住んでいた後谷戸だけだと12軒の家がありましたね。あとお寺（妙法寺）がありました。

道を歩いていても、会う人皆知っているという土地柄でした。久末には森という姓が30数軒、鈴木が10数軒いましたね。皆農家でした。

大きな耕作地っていうのはなくて、畑と田圃が半分づつといったところでしたね。畑が少ないですからね、二毛作と言ったかな、暗渠排水っていうのを施して、田圃の刈り入れが終わると、冬の間から6月くらいまでは、じゃがいもなど野菜を作っていました。高台のほうだと水の便のことがあるから、キャベツや白菜みたいなのは難しく、じゃがいも、サツマイモなどになりますねえ。

◆戦争の記憶

戦争のころというのは私は3、4歳だったのであまり記憶しておりませんが、防空壕に入ったのは覚えておりますね。

現在の久末の市営団地のところは高射砲の陣地だったので、狙われたりしたようです。他に宮崎台にあった62部隊や、蟹ヶ谷に帝国海軍東京通信隊が設営されていたんです。私たちは一般に「無線通信」と呼んでいましたが、そういうところが狙われたと、これは後から聞いた話ですがね。

外で遊んでいると、うんと低空をグラマンが飛んできたりして、怖かったですね。

あと、戦争中は結構我が家に兵隊さんが来ていたことを覚えています。

◆小学校の思い出

野川小学校に通っていましたが、久末と野川と梶ヶ谷の子どもたちが通っていました。子母口の方の子どもたちは橘小学校に通ってましたね。

すぐ上の学年は2クラスありましたが、私たちは1学年1クラスで、40～45人くらいでした。6年生までずっと野川小学校でした。

学校に入って、それまではカタカナで読み書きしていたのが平仮名に変わったので、「なんだ、この見たこともない字は？」と非常に戸惑いました。

3年生ころまではお弁当を持って行ってきました。お昼には帰宅してお昼ご飯を食べてくるって時期もありました。

野川小学校は給食を始めるのが早かったんですよ。東京から避難してきた子どもたちの中には、十分御飯が食べられない子どももいて、そんな子どもたちに配慮されたようですね。給食はコッペパンと脱脂粉乳です。それに地元で採れた野菜などが加えられていたので恵まれていたと思いますね。

◆子どものころの遊び

一人で過ごすことはまずなかったですね。ガキ大将を中心にした子ども社会ができていて、男の子が集まると、まず竹馬。もちろん自分で作るんですが、節をそろえて、

自分の背丈に合ったものを作る、これがなかなか大変なんですよ。(笑)

コマ回しもね、いかに技術を高めるかっていうんでロープを麻で作ったりね、工夫してました。そういう知恵は皆で出し合っ
て工夫して、競い合っ
て遊んでいました。

けっこう勝負的な遊びが多かったですね。あとは…「釘ぬき」って言ってね、地面に釘を投げて刺し、相手の釘を倒して勝負するんです。五寸釘が一番いいんですけど、なかなか手に入らない。物置を探まわったり、父の道具箱を探し回ったりしましたよ。(笑)そして砥石などで先をとがらせてね、そうやって作った強い釘は宝物ですよ。(笑)

あとは水鉄砲や紙鉄砲、ゴム銃などね、材料はいくらでもあるから、いろんなものを作って遊びました。情報を流しあい、大きい子が小さい子に教えてね。

女の子は、おままごとやお手玉で遊んでましたね。おままごと誘われて一緒に遊んだこともありましたよ。(笑)

当時は雪も降ったんで、雪が降ったら坂道で竹スキーですね。小さい子には竹そり。もちろん手製ですよ。

「手伝いなさい！」って言われながら、その合間を縫ってね。(笑)

物質的には何もなかったけれど、とても豊かな時代だったと思いますよ。

◆地域の様子

藁草履を作るのが得意で器用なおばあちゃんが出てね、藁とぼろ布を使って一日に何足も作っては子どもたちにくれるんです。それがすごく軽くてね、汚れたら洗えるし、とても具合がよかったですよ。ぐちょぐちょの道なんかは裸足で走りまわってましたけれどね。(笑)

田圃のある地域ですから、小川というか湧水がそこらじゅうにありますでしょう？ですから出かけるときに水筒なんて必要ないんです。湧水を飲めばいいんですから。

湧水の利用は生活の一部になっていましたね。で、そういうところでザリガニやウナギを捕ってました。ええ、ウナギが捕れたんですよ。

農作業をすると、10時と3時におやつ
の時間になりますでしょう？お茶うけって
言ってましたけどね。田畑のわきに手作りのむしろを敷いてね。遊んでいると「おいで」って声をかけてもらって、一緒にいただいでました。サツマイモや、サトイモをキヌカツギにしてね。あと、おむすびのこともありました。

すべて自給自足でね、お茶も味噌もね。お茶は皆さんよく栽培してましたね。醤油や菜種、ゴマなんかは子母口に伊藤さんという油屋さんがあって、そこで作ってもらってましたね。自給自足が大原則で、その知恵や経験を共有しあっていた、それが大きかったです。そうやって作ったものの「お

すそわけ」を持ってお使いにやらされるなんてことが、すごく多かったですね。

日常生活の必需品を売る店は、青木屋さんと千倍屋さんの2軒しかなかったです。食料品から日用品まで何でも売っているよろず屋さんです。今のスーパーみたいなもんですね。

◆公営住宅

昭和31～2年ごろから先達の方々が、この状況ではこの地域は発展しないということで、ここに市営の公営住宅を誘致しました。一番早かったのが妙法寺のバス停の近くですね。それまではバスも武蔵小杉から道中坂までしか来なかったんです。久末道下野川住宅と言ってね、大変画期的なことでした。現在は久末西住宅となっておりますがね。

それ以降、第三京浜道路の工事が始まりまして、その時に出土を使って田畑を埋め立ててこの辺一帯に市営住宅ができました。

最初はバス通りに近いところに作ったんですが、次の段階では、少し奥まった地域、宮谷だとか寺谷などですね、そういったあまり耕作していないところに作るように計画しました。

◆川崎めぐみ幼稚園開園

県営住宅や市営住宅などの公営住宅が増えて、それから「団地ブーム」になって、どんどん人口が増えてきました。オリンピ

ックがあったり、皇太子（今上天皇）のご成婚などのころです。

そうすると必然的に幼稚園が必要だという声が上がってきましてね。でもなかなか自分がやろうという人がいなくてね。

私のオヤジは幼いころ、8歳の時ですね、母親を亡くしておりまして、後妻がくるまでの間弟と2人で近所の人に助けてもらいながらも苦勞して過ごしたようです。そういう思いからでしょうかね、じゃあ引き受けようかということになったようです。

施設を作って、園長や職員を雇って、自分は農業を続けておりました。開園は昭和40年でした。

そのころ私は市役所に勤めていたんですけど、幼稚園の方もだんだん人任せにはできなくなってきて、昭和44年から運営に携わることになりました。橘幼稚園も同じ鈴木姓の者がやっておりましたね、そういうつながりもあったんです。

親しくしていた元校長の方に助けていただきながら携わっていたんですけど、その方も80歳近くになられて、もうバトンタッチせよと言われ、昭和60年から私が園長を引き継ぐことになりました。

当初は戦後の第2次ベビーブームでして、公営住宅に入る方々というのは年齢や家庭の状況が似たような方が入られますでしょう？それで幼稚園に入るお子さんもどんどん増えてきましてね。受け入れる側もどんどん増築したり設備を整えなくてはなりま

せんでした。

そういうお金って、すぐに回収できるものじゃないですし、経営面では全く大変でした。

そのころから今までずっと地域の方々からいろんなお力添えをいただけて、本当にありがたかったです。

子どもたちには人とのつながりを大切にすることや、知恵を働かせることを学んでほしいですね。あと、物事を判断する基準を自分の中に持っていてほしいです。

当時と比べて今の子どもたちは知識面においても物質面においても大変恵まれています。子どもの本質って言うのは代わらないですね。

子どもの日常生活を豊かに成長させ、健やかな成長を手助けするために幼稚園教育が必要だと私は思います。

昨日は高津警察署に七夕の笹を飾りに行ってきたんですよ。もう10年ほど毎年続けています。他にも園庭開放や卒園児の成人を祝う会だとかいろいろやっております。地域とのつながり、人と人とのつながりを大切にしたいですからね。地域の中から生まれた幼稚園としてこれからも頑張りますよ。

(平成28年6月28日取材)